

# そ の 他

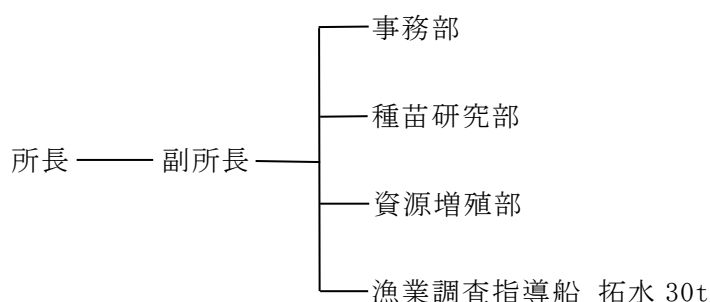
## I 庶務一般

### 1 組織・機構

「福島県水産資源研究所」は、栽培漁業の推進と底魚資源研究の拠点として、平成 30 年 6 月に相馬市で新たなスタートを切った。

栽培漁業については、東日本大震災による津波により被災し、東京電力(株)福島第一原子力発電所に隣接していた「福島県水産種苗研究所」の種苗生産、研究に関する施設、機能を復旧した。

底魚資源研究については、水産海洋研究センターと役割を分担し、沿岸性底魚類の資源管理に関する調査研究を担い、これに合わせ、漁業調査指導船「拓水」の根拠地を相馬市に移した。



#### 所在地等

##### 水産資源研究所

〒976-0005 福島県相馬市光陽一丁目1番14

電話 0244-32-0792～4 F A X 0244-32-0795

E-mail shigenken@pref.fukushima.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37395c/>

##### 松川浦分庁舎

〒976-0022 相馬市尾浜字追川18番地の2

電話 0244-38-6775 F A X 0244-38-6777

### 2 平成 30 年度事業別予算（千円）

款	総務費	1,584
項	総務管理費	1,584
目	人事管理費	1,584
款	衛生費	191
項	環境保全費	191
目	原子力安全対策費	191

款	農林水産業費	82,609
項	農業費	5,574
	目 農業総務費	3,057
	目 農業研究費	2,517
項	林業費	66
	目 林業振興費	66
項	水産業費	76,970
	目 水産業総務費	30
	目 水産業振興費	17,803
	目 水産試験場費	59,138
款	商工費	5
項	商工業費	5
	目 工業振興費	5
合	計	84,342

## Ⅱ 研究成果検討会・外部発表・一般公開等

### 1 研究結果検討会等

#### (1) 水産海洋研究センター・水産資源研究所 試験成績検討会

開催日時 平成31年1月16日

開催場所 水産資源研究所

開催経過 平成30年度「普及に移しうる成果」10課題、「放射性関連課題の成果」2課題、「参考となる成果」3課題を福島県農林水産技術会議評価部会に提出した。

成果課題名	区分	担当者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな種苗生産施設における水温の影響を加味した種苗生産を行ううえでのリスク抽出</li> <li>・ホシガレイ種苗の長距離大量輸送技術の開発</li> <li>・イシガレイとマコガレイの産卵場形成の差異</li> <li>・沖合底びき網漁業の震災前の海域別操業状況</li> <li>・震災後操業自粛による加入1尾あたり漁獲量・金額の変化</li> <li>・2017年漁期の底びき網漁船の操業状況</li> <li>・松川浦における2017年級アサリの分布密度</li> <li>・津波による松川浦の底質分布の変化とその後の経過</li> <li>・ヒラメの成長に対する緑色光照射の効果</li> <li>・ホシガレイの成長に対する緑色光照射の効果</li> </ul>	普及成果  普及成果 普及成果 普及成果 普及成果 普及成果 普及成果 普及成果 普及成果	榎本昌宏  實松敦之ほか 實松敦之ほか 山田学ほか 山田学ほか 山田学ほか 佐藤利幸ほか 佐藤利幸ほか 森口隆大ほか 佐々木つかさ ほか
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒラメにおける放射性セシウム濃度低下に関する要素ごとの寄与度</li> <li>・ホシガレイにおける放射性セシウム蓄積の個体差</li> </ul>	放射性成果  放射性成果	森口隆大ほか  森口隆大ほか
<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖合底びき網漁業の漁獲物の季節変化</li> <li>・高水温障害が疑われるホシガレイ親魚のへい死について</li> <li>・ホシガレイ飼育においてみられた個体別の摂餌量の差</li> </ul>	参考成果 参考成果 参考成果	松本陽ほか 榎本昌宏 森口隆大ほか

#### (2) 水産海洋研究センター・水産資源研究所 研究成果報告会

年月日	場所	対象者・人数	発表課題
H31.3.18	相馬双葉漁業協同組合会議室	相双地区関係漁協者40名	(1)震災後、底魚類の資源利用状況の変化 (2)海産魚介類の放射性セシウム濃度の傾向 (3)先端プロ事業について
H31.3.20	福島県水産会館研修室	いわき地区関係漁業者20名	(1)海産魚介類の放射性セシウム濃度の傾向 (2)震災後、底魚類の資源利用状況の変化 (3)先端プロ事業について

## 2 シンポジウム等における課題発表

### (1) 課題発表

シンポジウム等の名称	発表課題名	発表者	年月日	開催地
平成30年度東北ブロック底魚研究連絡会	震災後操業自粛による加入1尾あたり漁獲量・金額の変化	山田学ほか	H31. 2. 21	青森県八戸市

### (2) 投稿論文

投稿先	論文課題名	投稿者	印刷月
東北底魚研究第38号	松川浦ビームトロール調査による2017年の稚魚採集状況と漁獲加入との相関の検討	山田学ほか	H30. 12
東北底魚研究第38号	福島県沿岸におけるマアナゴCPUEと底水温との関係	松本陽ほか	H30. 12
東北底魚研究第38号	いわき市沖におけるトロール調査による震災前後のヒラメ分布状況の比較	實松敦之	H30. 12

## 3 漁業者等研修会の実施状況

年月日	研修会の名称	研修内容	対象者・人数	備考
H30. 6. 20	青年漁業士講座	海産魚介類のモニタリング検査と漁業の現状	青年漁業士1名	水産資源研究所
H30. 7. 14	漁青連相双方部会	コウナゴの今漁期の総括等	漁業者50名	相馬市
H31. 2. 8	漁青連リーダー研修会	今後の資源管理について	漁業者等87名	いわき市

## 4 緊急時モニタリング調査関係報告会

年月日	会議の名称	会議内容	対象者・人数	備考
H30. 6. 15	相双地区試験操業検討委員会	モニタリング結果報告	漁業者代表 50名	相馬原釜魚市場
H30. 8. 23	相双地区試験操業検討委員会	モニタリング結果報告	漁業者代表 50名	相馬原釜魚市場
H30. 9. 18	相双地区試験操業検討委員会	モニタリング結果報告	漁業者代表 50名	相馬原釜魚市場
H30. 10. 17	相双地区試験操業検討委員会	モニタリング結果報告	漁業者代表 50名	相馬原釜魚市場
H30. 11. 16	相双地区試験操業検討委員会	モニタリング結果報告	漁業者代表 50名	相馬原釜魚市場
H30. 12. 18	相双地区試験操業検討委員会	モニタリング結果報告	漁業者代表 50名	相馬原釜魚市場
H31. 2. 18	相双地区試験操業検討委員会	モニタリング結果報告	漁業者代表 50名	相馬原釜魚市場

H31.3.18	成果報告会(相双地区)	モニタリング結果報告	漁業者代表 40名	相馬原釜魚市場
----------	-------------	------------	-----------	---------

## 5 一般公開

### (1) 月別見学者数

(単位：人)

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
小学生											0
中学生											0
一般	5	3	20	0	13	21	35	15	22	26	160
合計	5	3	20	0	13	21	35	15	22	26	160

### (2) 参観デー(福島県豊かな海づくり大会)開催状況

開催年月日・場所	来場者数	内 容	
水産資源研究所参観デー 平成30年10月20日 10:00~15:00 相馬原釜地方卸売市場	約5,000名	福島県豊かな海づくり大会	ヒラメ、ホシガレイ稚魚の展示、放流体験 栽培漁業の取組紹介
		研究紹介コーナー	研究成果パネルの展示と説明
		体験・観察コーナー	調査船「拓水」公開 海藻押し葉づくり おさかな解剖教室
水産海洋研究センター参観デー 平成30年11月18日 10:00~15:00 小名浜魚市場	約14,000名	福島県豊かな海づくり大会	ヒラメ、ホシガレイ稚魚の展示、放流体験 栽培漁業の取組紹介
		研究紹介コーナー	研究成果パネルの展示と説明

## III 職員名簿

平成30年6月1日現在

所属	職名、氏名		職名、氏名	
	所長	水野拓治		
事務部	事務長	加藤英治	主事	木村 耕
種苗研究部	副所長(兼)種苗研究部長	川田 暁	主任研究員	榎本昌宏
	主任研究員	實松敦之	研究員	佐々木つかさ
	研究員	森口隆大	主任技能員	菊地正信
資源増殖部	部長	渡邊昌人	主任研究員	佐藤利幸
	主任研究員	山田 学	副主任研究員	松本 陽
調査指導船 拓水	船長	渡辺 忠	機関長	永山清友
	主査(兼)一等機関士	宗形順一	通信技師	佐藤仁一